

〔耳鼻咽喉科・頭頸部外科〕

研修の特徴と内容

【特徴】

当科では将来耳鼻咽喉科、気管食道科を標榜する医師のための基礎的な研修を行う。大きく分けると耳科学、鼻科学、神経耳科（平衡）学、頭頸部腫瘍学の4つのグループに分かれ、それぞれが質の高い医療を提供している。特に耳科手術件数は全国の大学病院の中でトップである。これらの4つの分野を万遍なく研修することができる。

【内容】

① 一般目標（G I O）

1. 難聴、耳鳴、めまい、嗅覚障害、味覚障害に対する検査を理解し、その基本的治療法を身につける。
2. 中耳炎、副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、咽頭炎など頻度の高い炎症性疾患の処置を中心とした治療法を身につける。
3. 耳鼻咽喉科、頭頸部外科の手術を通じて、基本的な手術手技を身につける。

② 行動目標（S B O）

1. 額帯鏡を用いて耳、鼻、のどの所見をとることができる。
2. 検査（聴力、嗅覚、味覚、平衡機能）の目的、内容を理解し、その結果を評価することができる。
3. 耳、鼻の単純レントゲン検査の評価ができる。
4. 基本的な耳鼻咽喉科疾患の診断ができる。
5. ファイバースコープを用いて鼻腔、咽喉頭の所見をとることができる。
6. 炎症性疾患の重症度と緊急度が判断できる。
7. 基本的な耳鼻咽喉科、頭頸部外科の解剖を理解し、CT、MRI検査を読影することができる。
8. 指導医等のもと、鼓膜切開、口蓋扁桃摘出、支持喉頭鏡下声帯ポリープ切除、気管切開などの基本的な外科的処置が実施できる。
9. 長時間手術や基礎疾患のある患者さんの術後全身管理を行うことができる。
10. 患者さんとのコミュニケーションを十分にとり、インフォームドコンセントに基づいた医療を実施することができる。
11. 社会人としてのマナーを磨き、コメディカルとも円滑に仕事を遂行することができる。

③ 研修内容（方略）（L S）

- L S 1：指導医等のもと、病棟、外来業務を通じて耳鼻咽喉科一般外来に必要な検査、診断、治療の能力を高める。
- L S 2：指導医等のもと、手術で助手を務めることで、基本的手術の適応、目的、原理を理解し、手術手技を習得する。
- L S 3：指導医等のもと、簡単な手術の執刀を務めることで手術手技のレベルアップを図る。
- L S 4：勉強会、カンファレンス
1. 術前カンファレンス：新入院患者の症例提示と診断、術式の検討を行う。
 2. 腫瘍入院カンファレンス：頭頸部癌患者の治療方針、術式などの検討を行う。
 3. ミニレクチャー：各グループの指導医等によりテーマ別に講義を行う。

④ 教育に関する行事

1. 術前カンファレンス

火曜日 16:30～ カンファレンス室

2. 腫瘍外来カンファレンス

火曜日 15:00～ 耳鼻咽喉科外来

3. 腫瘍入院カンファレンス

金曜日 16:30～ 9階東病棟面談室

4. 医局会、抄読会

火曜日 17:30～ カンファレンス室

5. ミニレクチャー

適時各グループより カンファレンス室、9階東病棟面談室

⑤ 研修評価（E V）

1. 自己評価：E P O Cを入力する。

2. 指導医等による評価：E P O Cへの入力状況、勤務状況の評価する。評価には耳鼻咽喉科作成の評価表を用いる。

3. 看護師による評価：E P O Cでの評価を行う。

指導医等

主任教授：阪上 雅史

教授：三代 康雄

准教授：都築 建三

講師：寺田 友紀

講師：任 智美

講師：桂 弘和

講師：宇和 伸浩

講師：大田 重人

研修実施責任者

講師：寺田 友紀